

ロータリー・ボランティアへの登録のお願い

第2640地区のロータリー・ボランティア活動は、各クラブに於いても十分な理解と活動が活発に行われるに至ってはいないという現状の中で推移して参りました。これまでに、ロータリー・ボランティアへの登録要請に対して取り組んで頂いた結果が地区全体で102名（今期登録者31名）ということです。

ロータリーの奉仕活動のうち、社会奉仕は地域に直結した奉仕活動で、長い歴史を持っているのに比べ、職業人であるロータリアンが職業を生かして奉仕するロータリー・ボランティアの歴史は浅く、しかも実例が少ないという現実には、小委員会を設置しなければならないという文章(手続要覧・職業奉仕)も、クラブあるいは個人生活においてあまり必要とされていないと考えていた節があります。手続要覧に地区内ロータリアンの1パーセントまでという上限を設けた、とあることにこだわっていたのかもしれませんが。(地区としてはこのことに束縛されないと考えてください)

職業を通じての奉仕活動の必要性が生まれたのは、阪神淡路大震災の時に、日本に於けるボランティア元年だと言われた時期でした。それまでのロータリー・ボランティアは海外からの要請に応えるために登録していたのですが、国内、地域に目を向けた奉仕活動を目指すことにいたしました。その一歩として自分が奉仕活動をしようとしているという意思を示すために登録をお願いしたのであります。

社会奉仕とロータリー・ボランティアの違いはクラブ地域(テリトリー)にこだわらなくてもいい事で、登録者の職業を見て奉仕に協力を要請する事ができます。またいろいろな奉仕団体を纏めてプロジェクトを組む事も可能です。きっかけが職業に関係しているというだけで、奉仕の種類や方法は柔軟に現実的に行う事ができます。阪神淡路大震災のような時、緊急に要請する事もあります。

地域にとってボランティアの活躍は不可欠で、最近の市民運動は高齢者と障害者のための環境整備に力を入れています。バリアフリー、ドメスティックバイオレンスといった取り組みも顕著です。

ロータリーの奉仕活動が、市民レベルの心のこもったものであるか否か。自分の時間を提供し、自分以外の人々の安心と喜びに寄与している人たちの姿を見るにつけ、ロータリー・ボランティアの活動が一日も早く一人歩きできるように願わずにはられません。

職業倫理を高めることと、ボランティアのあり方を考え実践する事は、今後のロータリーの職業奉仕活動に影響すると考えられます。

各クラブにおける登録をお願いします。登録していただいた書類はガバナー事務所あてお届けくださるようお願いいたします。(FAX, メール 可)